〈特集〉
―冨嶽三十六景に描かれた―
今はなき幻の島を探る。

諏訪湖が、かの有名な葛飾北斎の冨嶽三十六景に描かれていることをご存じでしょうか？

富士山を臨む見覚えのあるアングルですが、手前にはなじみのない陸地が描かれています。北斎はいったいどこからこの絵を描いていたのでしょうか。

実は、かつて諏訪湖には今はもう存在しない島がありました。この島はどのように生まれ、なぜなくなってしまったのか、そして、そこに祀られていたと言い伝えられる弁天様はどこに行ったのか？

まだまだ知られていない、岡谷の歴史に迫ります。

神話の湖、諏訪湖

山々に囲まれ、古来、湖底の源泉から渾々と湧き出る水をたたえる諏訪湖。

諏訪湖は、北から南へのびる「糸魚川静岡構造線」と東西にのびる大断層の「中央構造線」が交わる場所に位置しています。「中央構造線」は、鹿島神宮にはじまり諏訪湖を通り、豊川稲荷、伊勢神宮、天川、高野山を通り九州・阿蘇へ抜けています。このような特別な場所にある諏訪地方には竜神伝説をはじめとした、数々の言い伝えが残されています。

諏訪湖に祀られた弁天様

そんな諏訪湖に、弁天様が祀られているのをご存じでしょうか。諏訪湖の弁天様は、諸説ありますが、厳島、竹生島と並ぶ日本三大弁財天の一つである奈良の天河大弁財天社から勧請されたといわれています。

弁財天は、ヒンドゥー教の女神であるサラスヴァティ（Ｓａｒａｓｖａｔｉ／聖なる河の名を表すサンスクリット語）が仏教に取り込まれた呼び名です。古代インドの河神で、竜を神使としていたといわれています。川の流れる音や河畔の祭祀での賛歌から言葉を司る女神ヴァーチェと同一視され、音楽神、福徳神、学芸神、戦勝神など幅広い性格を持つようになりました。日本では日本神話に登場する宗像三女神の一柱である市杵島姫と同一視されることが多く、のちに「七福神」の一員として信仰されるようになりました。室町時代に、大黒天・毘沙門天・弁財天の三尊が合一した三面大黒天の像を、天台宗の開祖・最澄が祀ったという伝承があり、大黒・恵比寿とともに七福神の基になったとされています。

弁財天は元来インドの河神であることから、平安初期から末期にかけて日本各地の泉、港湾の入り口などに数多く祀られました。諏訪湖の弁天様もこのころに祀られたと思われます。諏訪湖の化身であると言い伝えられる竜を従え、諏訪湖のたった一つの出口である天竜川が始まる場所におられ、諏訪湖を守っていたと伝えられています。天竜川の名前も、諏訪湖の竜神に由来するといわれています。

井出道貞著『信濃奇勝録』

江戸時代末期、佐久郡臼田町の神官であった井出道貞が、信濃国の各地を十数年にわたって実地踏査を重ね見分した成果を記録した地誌『信濃奇勝録』には、今はなき「弁天嶌（島）」が描かれている。

戦国時代に始まった治水工事

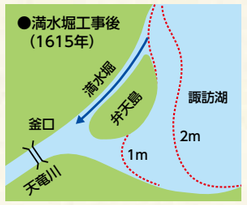
時は戦国時代、領土を守るために、いかに優れた城を築くかが重要な時代でした。諏訪地方を治めていた高島藩主は、諏訪湖のなかに難攻不落な新城を築きました。

この城は、諏訪湖の出口を狭くすることにより水位を上げ、城の四方を水で囲む水城で、諏訪の治安を守ることに貢献しました。

しかし時代は移り、高島藩は人口や米の石高を増やすことが必要だと考え、水田を増やし、災害を少なくするための治水工事に力を入れるようになりました。

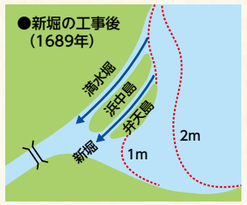
1 弁天島の誕生

元和元年に高島藩主は、諏訪湖の水位を下げ水田を増やすために、諏訪湖の尾尻（現在の釜口水門がある辺り）の右岸側に幅約7メートルの新たな水路「満水堀」を造りました。これにより残った陸地が島になりました。当時ここに農家4戸と弁天社があったため、「弁天島」と名付けられ、「弁天島」が誕生したのです。



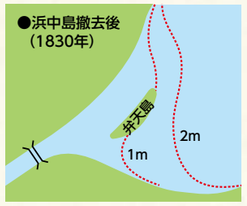
2 浜中島の誕生

その後、石高は上がりましたが、大雨のたびに諏訪湖があふれ、洪水がひんぱんに起こるようになりました。そこで高島藩は諏訪湖の水を流すために、さらに元禄2年、弁天島中央部を掘削し、新堀を造りました。これにより「浜中島」が誕生しましたが、諏訪湖の氾濫は続きました。



3 相次いで消えた島々

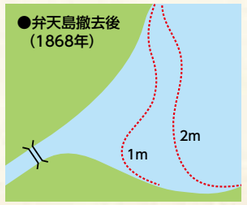
江戸時代後期、続く洪水を防ごうと、高島藩に浜中島を撤去する請願をした人がいました。私財を投げ打って、諏訪の治水に尽力したといわれる伊藤五六郎です。五六郎は阿呆丸と呼ばれる大船を造り、1年をかけて浜中島を掘削し、掘った土を有賀村近くの湖岸に運び五六郎田んぼと呼ばれる水田を造りました。



延べ1万6千人を費やす大工事で、これにより、浜中島は消えてなくなりました。

さらに、明治元年の諏訪湖の氾濫をきっかけに、諏訪の村々も、時の高島藩主に弁天島の撤去を請願しました。各村で手分けをして撤去事業を行い、ついに弁天島もなくなり2つの島は消滅しました。

誕生から253年存在した弁天島はこれで消えてしまいましたが、これにより諏訪湖が氾濫する回数は減り、諏訪地域は水害から守られたのです。



〝民を守るために生まれ民を守るために消えていった島〟

葛飾北斎が描いた弁天島

弁天島が存在していたのは1615年から1868年の253年間。浮世絵師・葛飾北斎（1760−1849）が活躍していた時代です。

葛飾北斎は、江戸時代後期の浮世絵師で、代表作に「冨嶽三十六景」や「北斎漫画」などがあり、世界的にも著名な画家です。

富士山をさまざまな地域、角度から描いた、最高傑作「冨嶽三十六景」は、46図からなる錦絵で、「北斎ブルー」と言われる透明感のある青の色彩が印象的なシリーズです。「ベロ藍」と呼ばれる、当時ベルリンで発見された人工顔料を使っているため、発色がよく濃淡のぼかし摺りもきれいに表現されていました。このだれもが知る「冨嶽三十六景」の44図「信州諏訪湖」に弁天島が描かれているのです。36景といいながら44図というのも不思議ですが、当時このシリーズの売り上げがよかったため10図が追加されました。このとき、北斎は72歳。なぜ諏訪湖を訪れたかは不明ですが、晩年に龍を多く描いてもいる辰年生まれの北斎が、諏訪湖の竜に呼ばれたとしたら、興味深いところです。

冨嶽三十六景にも描かれた奇勝

〈珍しい景色。すばらしい景色〉

冨嶽三十六景の代表作
21図「神奈川沖浪裏（かながわおきなみうら）」

冨嶽三十六景・44図「信州諏訪湖」

〝弁天島を通して岡谷の未来を考える〟

話は現代に戻りますが、弁天島を通して岡谷のためにさまざまな活動をしている人たちがいます。

「諏訪湖と八ヶ岳と富士山を一緒に眺められるのは岡谷からだけなんです」と、かつて弁天島があった場所近くに立って語ってくださった畑文博さんは、高校時代の友人ら5人で株式会社ユードリームを立ち上げ、2011年から地元を盛り上げるさまざまな活動を続けています。畑さんは活動を進めるなかで、岡谷市湊にある桟橋を訪れました。この桟橋は、ワカサギ漁が減るなどで、今は使われていませんが、シルクが全盛だった大正時代には多くの釣り客で賑わっていました。畑さんはこの場所で、八ヶ岳から昇る朝日が湖面にきらめく景色を見て感動し、この桟橋をなんとか後世に残したいという想いで、所有者から権利を譲り受けました。有効に活用する方法を模索し、釜口水門付近の歴史を調べていく過程で、葛飾北斎の冨嶽三十六景に諏訪湖が描かれていたことを知り、そこに描かれていた「弁天島」や「弁天様」について深く調べ進めるなかで、さらに岡谷への想いが深まったと言います。

畑さんをはじめ、さまざまなプロジェクトで交流ができた人たちは、弁天島の存在を多くの人に知ってもらい、新たな観光資源となりうる弁天島を「岡谷の観光、岡谷の未来」につなげていこうと、さらなる活動の幅を広げています。

株式会社ユードリーム
畑 文博さん
本業のかたわら、株式会社ユードリームにて高校の同級生とともに地元を盛り上げる活動を続けています。

弁天島の弁天様はどこへ？

さて、なくなってしまった弁天島にいらした弁天様はどうされたのでしょうか。

弁天島には、2つの弁天社がありました。社は「祭神市杵島姫命」で、1社は小口次郎右衛門の祝神、他の1社は、高島藩家老千野氏の心願により分霊して祀られたものでした。

弁天島が撤去されるに当たって、小口次郎右衛門の祝神は東山田（下諏訪）の小野田に移され、千野家の弁天社は、下浜の「御社宮司社」の前に移されました。

東山田の弁天様は、小口家の末裔に大切に祀られ、下浜に移られた弁天様は、時代の混乱のなかで一時行方がわからなくなってしまいましたが、現在は「浜中島弁財天」として下浜区民の心のよりどころとして、年1回の大祭を通して大切に受け継がれています。

下浜区で年1回行われている弁天祭

浜中島弁財天に鎮座する弁天様の石像

下浜区にある浜中島弁財天

今も続けられる弁天様の研究

湖の驛プロジェクト副代表 有賀晃示さん
湖の驛プロジェクト代表 花岡　潤さん

岡谷市民の心のよりどころを再発見しようと、諏訪湖の弁天様について深く研究をされている湖の驛（うみのえき）プロジェクトのお二人に、今回の取材にご協力いただきました。

【出　典】
「復刻平野村誌」平野村役場編
「諏訪湖氾濫三百年史」堀江三五郎著
「花岡区誌」花岡区誌編集委員会

まだまだある“岡谷に伝わる話”

湊・花岡
しょうずか婆さま
こわいお婆さんではありません。努力で争いをなくしたお婆さんの話。

駒沢
蚕玉神
牡馬と結婚の約束をしてしまった娘、殺されてしまった馬と娘の運命は…。

長地・東堀
徳本さま
名医の誉高く、人呼んで医聖徳本※と讃えられたお医者さまの話。
※安価で医療活動を行った放浪の医者、永田徳本のこと。

横河川
ホッチンボクの泣き石
春宮の鳥居を作るための石を探していた石工は、大きな石を見つけたが…。

湊・花岡
ナマズ坂
諏訪湖に住む大ナマズと戦った力自慢の音坊と観音さまの釣鐘の話。

高ボッチ
でえだらぼっち
全国に伝わる大男伝説。岡谷に来たでいだらぼっち※の話。
※山や湖沼を作ったという伝承が多く、元々は国づくりの神といわれる。

小口
宮坂金五
わが身を犠牲にしてまで争いを止め、山を守った宮坂金五という庄屋の話。

今井・塩尻峠
ごん吉の親孝行
ごん吉が歩けない母親を背負い、お告げに導かれたどり着いた先で…。

小田井舩魂神社
ちんちろ犬
子がほしい娘を、ちんちろちんちろと鳴いて安産の神社に案内した犬の話。

岡谷の知られざる歴史はいかがだったでしょうか？ 長く暮らしていても、知らないことがたくさんあると思います。

言い伝えにまつわる痕跡も各地に数多く残っています。物語を深く知ることで、今まで気づかなかった、岡谷の魅力を再発見できるかもしれません。

これを機に、岡谷の昔話に関する書物を紐解いてみるのはいかがでしょうか。

【出　典】
「諏訪の民話・伝説」語り・横山章／文・奈川稜／挿絵・熊澤祥吉
「おかや 歴史の道 文化財めぐり ガイド編」岡谷市教育委員会